

「リハビリにと始めた私の書道」展 ～失語症と共に歩んだ12年～

はじめに

当温泉オーナーから“作品展を行ってみては？”との話があり、「お引き受けするのはおこがましい」と思いました。失語症のリハビリにと発症してから12年間「生活の中で楽しめる書」を制作して来ました。



何らかの障害をお持ちの方々が「家に閉じこもらず外に出て、生活を楽しむきっかけ」になればと考え直し、作品展の話を引き受けることにしました。

書道を始めたきっかけ

12年前にクモ膜下出血で倒れ、失語症を患い、横浜市総合リハビリセンターに入院中、言語聴覚士の勧めで、障害者スポーツ文化センター“横浜ラポール”の書道教室へ参加しました。

「言葉が不自由な為に人と会うのを避けて家に閉じこもらず、何か趣味を持ち、楽しく日々を過ぎて貰えたら」と願って教室が始まり、現在は「書の会」～失語症の方のための書道教室～となり、私はずっと通っています。

発病当初、車椅子・左手での食事、リハビリ入院時は、“発話”は時々単語や句が出る程度、“書字”は漢字が少し書けるが、仮名は誤字が多かった状態です。

リハビリのお蔭で、歩行も普通になり、右手で箸や筆を持てる様になりました。

リハビリになればと始めた書道で「上手に」「きれいに」書けた作品ではありませんが、これまで作った作品を見て下さい。

